

今回の Topics は、カザフスタンの物流事情についてお届け致します。カザフスタンは 1990 年代後半から豊富な天然資源を背景とした外資主導の資源開発を進め、主に石油関連の輸出によって急速な経済成長を果たしております。内陸国であるカザフスタンでは鉄道による物流も発達しており、現地での調査内容を合わせて纏めておりますので、ぜひご一読ください。

I. 概要

カザフスタンは中央アジアに位置する内陸国であり、周囲を山で囲まれた盆地で、国土は 272 万平方キロメートル(日本の約 7 倍)、人口は約 1,700 万人。首都はアスタナ。15 世紀に「カザフ＝ハン国」という遊牧政権を形成しましたが、19 世紀以降からソ連崩壊までロシアの支配下が続き、歴史的にロシアとの関係が深いです。

近年は石油を中心とする鉱物資源の輸出を軸に経済成長を続けています。IMF 推計によると 1 人当たり GDP もロシアに迫る勢いであり、中央アジア 5 ヶ国における GDP 規模の 70% を占めるなど、存在感を発揮しており、2017 年には万博も開催予定です。

II. 貿易概要

カザフスタンの主要貿易品目および主要相手国は以下の通りです。ロシア以外では、地政学的な利点から中国が影響力を強めており、近年は韓国・欧米も積極的にアプローチをしています。日本企業も、近年はウランやレアアースといった資源を中心に投資を行うと共に、物流事業や小売事業での進出も見られます。

(1) 主要品目

- ・ 輸出：石油、石油製品、無機化学品
- ・ 輸入：機械設備、食料品、鉄鋼

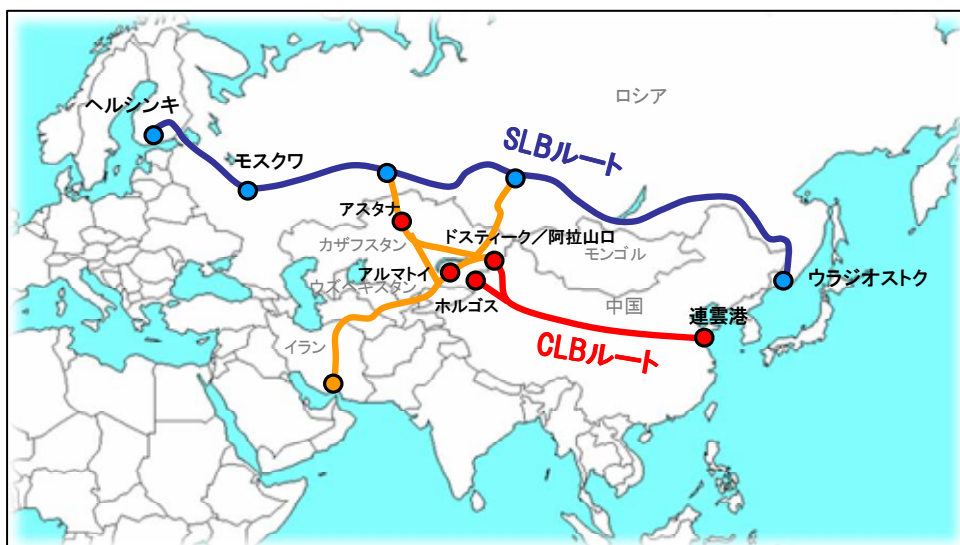
<出典 外務省 HP-カザフスタン基礎データ>

(2) 主要貿易相手国

- ・ 輸出：中国、イタリア、オランダ、ロシア
- ・ 輸入：ロシア、中国、ウクライナ、ドイツ、米国

III. 物流調査報告

内陸国であるカザフスタンでは、ロシアからの陸路(トラック・鉄道)、中国からの陸路(トラック・鉄道)が物流ルートとなっており、特に鉄道による物流が発達しています。古都であり商業都市でもあるアルマトイが物流の要衝となります。



中国・ロシアからカザフスタン向けアルマトイの鉄道輸送は、シベリアランドブリッジ(SLB)及びチャイナランドブリッジ(CLB)で接続されています。

ただし、中国とは軌間が異なるため、CLB 経由の場合は国境(ドスティーク/阿拉山口)で貨物の積み替えが発生しています。



鉄道貨物は多数の引込線で近隣大小多数の物流倉庫に輸送されています。ただし、倉庫も最新鋭のものから古い施設もあり、クレーンの有無やスペックなどのファシリティの違いにより、輸送品質にバラつきが出るように見受けられます。



(アルマトイ駅の貨車)



(アルマトイ市内の鉄道と倉庫)



(アルマトイ市内の鉄道ヤード)

IV. 物流面の課題と今後の方向性

近年は、CLB を経由した西向きの貨物が増加していることを受けて貨物の滞留がしばしば発生しています。そこで、商都のアルマトイにも道路が通じているホルゴス特別経済特区が注目を浴びています。2012年10月にはカザフスタン政府もアルマトイ・ホルゴス間の道路整備について世界銀行と融資協定を締結しており、現在、両都市間の道路の整備が進められています。



<出典 ジェトロセンサー2013年2月号「カザフスタン」>

山間道路、路面に凸凹あり



アルマトイ近郊、路面に少し凹凸・うねりあり

(アルマトイ・ホルゴス間の道路事情)

アルマトイ・ホルゴス間の道路を走行する際には特に山間部で振動が断続的に続くため、振動や強い衝撃に弱い精密機器・家電製品などを輸送する場合には、低速走行や振動を緩和する緩衝材や梱包の工夫が必要と思われます。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せくださいますようお願い申し上げます。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html